



日本システム監査人協会報

システム監査アジア太平洋会議参加報告

「情報技術の有効性の監査」について

— APISCA '93 の報告 —

NO. 461 橘和 尚道

はじめに

システム監査アジア太平洋会議(APISCA'93)に出席させて頂き、大変勉強になりましたが、その後の忙しさにまぎれて資料の整理も出来ずにおりました。今回急にその報告を分担せよとの命に接し、お断り出来る理由は全くないので、新しく買い求めたコンサイス英和辞典を片手に、それでなくても衰えた記憶を呼び戻して、以下にご報告する次第です。

会議では内外のシステム監査に関係のある立派な方々の高度な講演が続いたのですが、2日目の午前の掲題の報告に絞ってその責めを果たしたいと思います。理由はそれらの多くの講演のポイントを纏って報告するには、あまりにも内容が多岐にわたり且つ難しいこと、むしろ一つのテーマ例えば掲記の「有効性の監査」について比較的詳しく報告した方が会員の皆様にも参考になるのではないかと考えたからです。なお「情報技術」の有効性であるので、最初は筆者の苦手な技術的な話と思い、あまり期待もせず飛び込んだ部屋でしたが、内容はその反対で我が意を得たりものでした。

最近 Information System と問わずに

Information Technology と言うことが多いということ、その後中央監査法人の松尾明先生に教えられました。なお以下は当日の配布資料やメモの要約に私見を交えて、筆者の印象の強かった部分を強調した報告となりましたが、辞書は新しくても語学力は数十年前から衰えているので、正確な報告の自信はなく、その点はお許しを頂かなければなりません。

「情報技術の有効性の監査」；

ロバート・G. パーカー氏

(フロイト&ワッシュ、カナダ・ビクトリア州)

1. 概 観

原題は The Information Technology Performance Audit である。

まず情報技術の有効性監査のキーになる問題は、①「我々の支出は多過ぎないかそれとも少な過ぎるか?」、②「適切なものに対して支出されているか?」、③「それでもうかっているか?」の三つであるとする。

また有効性監査が必要になる時は、①組織が重大な変革を経験しようとしている、②IT戦略の進展の第一ステップとして、③経営の関心事が「価値ある投資か、企業目標の支援になるか、IT予算の水準は、費用対効果は、システム開発要求への応答は、ユーザの不満足度は」などにある時である。

2. 全体の分析

(1) 企業目標からのアプローチの視点

① ユーザ側

アプリケーション・システムとデータについて、量的に普及しているか、質的には機能から見てユーザーニーズを満たしているか、方向性はよいか、またユーザの意識は高いかなどの視点がある。

② 供給側

IT資源として考えた人材、技術の状況はどうか、ITの経営として考えた機構組織、計画、管理の状況はどうかの視点がある。

(2) ITの戦略的重要性の視点

現在のITの戦略的重要性が、将来のITの進展によって更にその戦略性が高まるといようなITの戦略的役割の視点。

(3) 財政的分析の視点

投資全体に占めるIT投資の比率、IT投資の累積、売上に占めるIT投資の比率、他の企業との比較、開発・保守・運用・人材・ハードウェアの投資の比較などの視点。

比較データとして「産業別・売上高対比IT予算比率」、「IT投資水準・合計額の推移」、「IT投資水準・売上高対比率の推移」、「IT投資水準・1店舗当たり額の推移」などがあり、種々のデータから比較分析を行う。

3. 有効性の評価レビュー

(1) 機能品質の評価

この評価項目は11項目にわたるが、そのうちの一部の質問の例を示されたので、そのうちのいくつかを例示する。

① システムの信頼性

そのアプリケーション・システムは、必要な時に有効であり、レポートはスケジュールどおり受領できるし、プログラムのトラブルは速やかに修正される。このことについて、以下にその程度を示せ。(コメントの記載欄あり)

	低 (Low)	中 (Med)	高 (High)
a) そのシステムによって現在供給されているもの	1	2	3 4 5
b) その機能によって要求されているもの	1	2	3 4 5
c) この要素の重要性	1	2	3 4 5

② 使いやすさ

そのアプリケーション・システムを使う場合または操作する場合の単純性を示せ。(5段階評価は上記同様に、a, b, cごとに行うが、1の評価は「不十分(Poor)」、5の評価は「非常に良い(Excellent)」と変わる。)

③ アウトプットの表示と適切性

出力媒体の品質や読みやすさービデオ・ディスプレイまたは印刷ーおよび報告書の品質と適切さについて示せ。(評価は②に同じ)

(2) IT人材資源の評価

① 全体的に要員規模は適当であるか

② 適切な技能/経験が役に立っているか

③ 要員は効果的に役立たされているか

④ 要員は効果的に管理されているか

⑤ 要員は適切に報いられているか

資料として、「要員配置職種別比率」、「要員の技能特性」、「要員のエンドユーザ支援機能」、「要員の経験レベル」などの平均値、標準値があり、これらを比較材料とする。

(3) 運用の評価

運用と保守性について評価の質問例のうち次の二つをあげる。

① オペレーションの容易性

そのシステムのオペレータの介在は最小限か？ 適時にオペレーションが準備され容易に実行に移れるように用意されているか？ 異常操作状況にある時のオペレータの行動はよく文書化されていて、容易に処理されるか？ テープの付け替えは最小限になっているか？ システムは操作ミスを発見できるか？ 印刷業務はよく処理されているか？ について評価は1回答、別にコメント欄がある。

	不十分				非常に良い
評価	1	2	3	4	5 N/A

② 故障とリラン

そのアプリケーション・システムはしっかりしているか？ それが故障したり、リランの必要はめったにおきないか？ ハードウェアとOSの故障は分離されるか？ もし問題が一貫して一つの原因による場合は、コメント欄に記入。（評価は①に同じ）

(4) 経営管理の評価

経営管理の評価は、「戦略の策定と計画」、「人材管理」、「データ資源管理」、「システム開発管理」、「販売サービス管理」に及ぶ。

また冒頭にあげた三つのキーは次のような質問になる。

- ① 情報技術に対する投資は、多過ぎるか、不十分か、適当か？
- ② 情報技術に対する投資は、最も見返りのある分野に焦点をあてているか？
- ③ 企業は、それ故にその情報技術に対する投資から収益を得ているか？

(5) 有効性と効率性

最後に以上を総括して定義づけをされた。

① 有効性とは

企業が、その業務と情報技術目標や戦略に照らして、適切なシステムを選択し、開発し、実効あるものになっていること。

その適切なシステムは、費用対効果の高いシステムを開発できる適切な能力によって、ユーザに対して適切な品質を提供していること。

② 効率性とは

開発すべく選択されたシステムは、それが適切であろうとなかろうと、出来る限り費用効率良く開発され運用されていること。

おわりに

このパーカー氏の講演を聴いて筆者が感激したのは、前述の五段階評価方式の質問状である。実はかねて当社で実施しているユーザ部門の「情報システムに関するアンケート」のなかで、適用業務システムの有効性評価のアンケートが同じ五段階評価方式であったからである。これについては本会報NO. 25の「情報システムの有効性の監査について—その実施上の困難性についての若干の考察—」(PP. 1~3)及び最近の「システム監査白書 93-94」の事例発表「日本火災におけるシステム監査」(PP. 63~71)の中で、その考え方について若干ふれたが、自信のあるものではなかった。同氏の講演により、海外での実施例を聴けたことが大変嬉しく、また我々の自信にもつながったと言えるからである。

しかし情報システムの有効性の監査の困難性は、評価の問題を中心に解決すべき種々の課題を提供している。パーカー氏の講演の結びの言葉は次のようなものであった。

「情報技術の有効性の監査は、簡単には出来ません。いろいろなツールを使用し、よく調査しなければなりません。また経営の期待をになって、豊富な知識とトップレベルのスキルを駆使しなければならないのです。」

システム監査人の研鑽が常に求められていると言わなければならない。

[参考資料]

Robert G. Parker; Information Technology Performance Audit Participant's Handout (1993. 8. 31)

システム監査の世界的潮流について

NO. 74 梅津 尚夫

旧聞になるが、昨年8月にシステム監査アジア太平洋会議 (APISCA' 93) が開催された。当協会は後援団体として協力し、会長の代理として私が初日に参加する機会を得たのでその中で受けた印象を2つのべてみたい。前回88年の東京大会にも参加したが、今回は不況のためかお祭り気分も少なく、始めから白熱した講演が行われた。

1. リエンジニアリングにおける情報システムの重要性

ジョージア大学のセン教授が行った基調講演のテーマは「経営戦略と情報技術の結合」であり、結合 (LINK) がキーワードである。これからの経営の重点は企業の有するネットワークの相互接続であり、スタンドアローンの企業は時代遅れとなる。相互接続から新ビジネスの戦略が生まれ、各企業は他社から喜んで接続されるような特長ある情報を提供できることが重要である。

また、情報システムの活用がBPR (ビジネスプロセスリエンジニアリング) において不可欠である。業務処理の時間を短縮することが企業の競争力である。そのために、逐次処理でなく並列処理を行わねばならない。お客へのサービスとしてどんどん処理の速さを追求して行くと、情報の共有化の問題につき当たる。情報システムの果たす役割は非常に大きくなり、システムコストは経費でなく投資と考えねばならない。

以上の点が講演で強調された。

2. システム監査という独立した役割は今後もあるのか

今回の会議に参加して考えたことが上記の問題である。今までのシステム監査は、既にでき上がっているシステムの評価を行うことを中心としていたが、どれだけの人がそのような監査を業務として行っているか。現実に当協会会員の多くは企業内のシステム開発・管理に従事している。そのことを考えると、システム監査人は開発済みのシステム評価にとどまらず、積極的にシステムコンサルタントとして、システム開発・設計段階からの関与をしていく必要がある。システム分析・設計・管理に取り組む。そのための手段として、標準化が進みISO9000などの品質管理基準も不可欠のものになって来る。

今回の会議でもアメリカのEDPAA (EDP監査人協会) が会の名称をISA&CA (情報システム監査・コントロール協会) に変えると言う話が出ていた。日本においても、情報処理技術者試験の新分野としてシステムアナリストが独立したがむしろ監査人の役割を広げるといように考えるのがよいのではないだろうか。

以上は私の個人的な感想であり、皆様のご意見・反論を期待する。

第27回月例研究会報告

LANのセキュリティ

平成5年9月10日

日本コンピュータセキュリティ(株)

河端 宇一郎 氏

去る9月10日、日本コンピュータセキュリティ(株)の河端宇一郎コンサルティング事業部長を講師に迎え第27回の月例研究会が開催された。

テーマは『LANのセキュリティ』ということで、オープン化・ネットワーク化の進む昨今システム監査人にとっても関心の高いテーマでもあり、当日は約50名の参加者を得た。

それでは、研究会の資料にそって項目をあげてみる。

1. LANのリスク
 - 1) 一般的なネットワークのリスク
 - 2) LAN特有のリスク
2. ネットワーク管理
 - 1) LANの管理目標
 - 2) LANの一般的な管理項目
 - 3) LAN構成機器と管理項目
 - 4) TCP/IPのプロトコル体系
 - 5) メインフレームを含む複合LANの統合管理アプローチ
3. LANの障害対策
 - 1) 幹線LAN・支線LAN・サーバ
 - 2) ネットワークの運用管理
4. アクセスコントロール
 - 1) ユーザ管理
 - 2) ファイル分割
 - 3) サーバへのアクセス管理
5. その他のセキュリティ課題
 - 1) PDU (Protocol Data Unit) に対するセキュリティ対策
 - 2) 物理規格違反
 - 3) バックアップ、リカバリ
 - 4) データインテグリティ
 - 5) ウィルス対策
 - 6) 外部接続するIPホスト

日本コンピュータセキュリティはセコムとNTTで出資・設立されたシステム監査を専門に行う企業で当協会の法人会員でもある。LANについては月例研究会の一連のシリーズの中でベンダーの立場から、そしてユーザの立場からとそれぞれ取り上げてきたが、ここにシステム監査を行う第三者の立場からというもう一つの視点が加えられた。

わたしの社内でも部門システムとして約1年ほど前からパソコンLAN (Netware386)を導入しているが、たまたまその部門の所属する事業所が地理的に遠いということもあって、特にセキュリティ面での十分なフォローが出来ていないという現実がある。

部門内のユーザを対象にしているという点では比較的クローズドなシステムであり、セキュリティ対策がおろそかになりがちであるが、既に外部の協力企業と接続する計画が検討されていることや、回線を経由してLANシステムのメンテナンスを行っていることなどを考えると、改めて詳細なチェックが必要である。

『万人が善人』という前提でシステムを構築・運用する訳にはいかないことを、再認識させられた。

あと数年もすれば多くの事業所で、コンピュータのネットワークが電話やFAXと同じ程度の感覚で使われていることだろう。『情報の管理』という点では別に目新しいことでもなく、既に文書管理規定などによってどの会社でも一般的に管理されている。

しかし、従来の管理規定は紙の上に記録された情報を主な対象として想定しており、これからのネットワーク時代に有効に機能するかどうかについては疑問の残るところである。

講師の話の中にあつた『LANのセキュリティの問題は、まず会社自身がセキュリティについてどういう明確な方針をもっているかという問題である』という点が妙に印象に残った夜であった。

(NO.472 高坂 功)

第28回研究会 感想文

商法改正とシステム監査

平成5年10月25日

弁護士 藤谷 護人 氏

今回のテーマは、弁護士藤谷護人氏による『商法改正とシステム監査』であった。案内状の「商法改正により、システム監査が“爆発的”に普及する可能性を秘めている」という文句に引かれたのか（実は私もその一人であるが）、会場の監査法人トーマツA会議室は、100人以上の参加者で埋まった。

藤谷氏のお話は、商法改正により株主代表訴訟が極めて容易に実施できるようになり、その結果、コンピュータに関する経営判断においてシステム監査を実施しなかったことが、代表訴訟の訴因と成りうるのではないかという問題提起であった。この点に関し、システム監査が法制化されていないことや、システム監査の実施効果などとの関連から、課題が多いことがわかった。

その後、熱心な質疑応答が行われたが、とくに、藤谷氏が「個人的意見ではあるが」と断った上で、国および自治体に対するシステム監査は法的義務であると述べられたことが、印象に残った。過去に自治体の勤務経験がある氏のご意見として、大いに賛成である。

ただ、法的義務化が進んだ場合、今以上に、システム監査の監査責任も問題となる。会計監査と違い、監査対象も監査観点も幅広いシステム監査において、監査人の責任範囲は限りなく広がっていくのではないか。そのような疑問も湧いてくる。

いずれにしても、弁護士の方から、株主代表訴訟の内容や、取締役の善管注意義務、忠実義務などのわかりやすい説明を聞くことができたことは大変有意義であった。

(NO.325 松山 博美)

第29回研究会へ参加して

ビジネスソフトウェアにおけるシステム監査

平成5年11月26日

(株)日本マネジメントアカデミー 平田 氏

退社時刻の頃になると、辺りもすっかり暗くなり一段と年の瀬に向かっていく感じがします。今年も残すところ一月余りになった11月26日に第29回月例研究会が開催。ハナ金の誘惑にも負けず参加。『感想をお願いします』の一声にも、却って普段よりも緊張して拝聴することになりました。

(株)日本マネジメントアカデミー社のソフト開発部でシステム監査を担当されている主任の平田さんが講演。1983年設立の会社で、資本金9700万円、従業員230名。新潟県内を中心に、システム開発のビジネスを展開されています。通産省のSI登録認定企業で、システム監査企業台帳へも登録済みのこと。中堅ソフトウェアハウスの中に、システム監査をどのように取り込むかをポイントに話を進められました。規模的には半分以下ですが、ソフトハウスの私は興味を持って傾聴しました。

印象に残った部分を紹介しますと、先ず、担当するシステム監査室の役割を限定されているところです。①開発過程での監査、②業務処理統制、③規模の大きいシステム（コボル換算で200～300K程度）、④株式上場のためのシステム構築、⑤リスク回避、⑥内部監査。また、アプリケーションも、販売管理、物流管理、生産管理、財務管理、人事給与等に、特に製造業に的を絞って。理由は、会社のエネルギーを分散させないということで、これは同じ境遇の身としては妙に納得させられます。体制やタイミングは、1チーム2名で、概要設計書完了時に、2～4週間の期間を使い、年間に3～5システムを実施。しかし、会社規模から専任は置くのは難しいとのこと。

終わりまで聞いて感じたことは、受託システムを請け負っているソフトウェアハウスの宿命になるのでしょうか、一発物の特注品を納期通り、かつ品質面も十分満足でき、しかもコスト割れを起こさずにどう仕上げるか、どうしてもそこに視線がいつてしまうこと。段階的かつ部分的にシステム監査を導入されているように見受けられました。質問者からも意見が出ましたが、システムの有用性に関する監査を取り敢えず外され、信頼性に限っている点も、背景に工数や費用、リスクの問題も存在しているのではないのでしょうか。

こういう不景気の影響も多分にあるのですが、昨今中小のソフトウェアハウスが独力で請け負っているのは、短納期で小規模システムが圧倒的です。当然、コストや工数を意識せざるを得ません。常にそういった側面と所謂良いシステムを構築することの間にジレンマがあるわけです。企業の体力からいっても、一遍に全面的導入は無理です。段階的になるのはしょうがない。むしろ段階的であっても取り込む姿勢が肝要であると思います。

もうひとつ、盛んに強調されていた『コントロールの組み込み』ということは、司会者も言われていた『品質を作り込む』ことに通じていて、目下話題のISO9000-3の目指すところに方向が合っているように思います。本来、システム監査とシステムの品質は別のテーマ。監査をした結果、ある部分で品質が高まることもあります。それが目的にはならないと思います。

当初、講演テーマを見た時に、ビジネス系ソフトウェア商品の話題と勘違いしていました。しかし結果的には、身近のテーマで大いに参考になりました。ありがとうございました。

(NO. 335 林 淑夫)

第30回定例研究会 感想文

中堅・中小企業とシステム監査 (有効性監査の試み)

平成5年12月13日

さくら総合研究所 大島 博行 氏

去る平成5年12月13日(月)、大阪から大島氏を招いて上記演題の研究会が開催された。講師はさくら総合研究所(大阪)のシステムコンサルティング部に所属し、情報システムがらみのコンサルティングとシステム監査で活躍中である。氏はもともと東京の事例研究会のメンバーで、筆者も氏と一緒にC社の模擬監査を実施した経験がある。(協会編「システム監査の基礎と実際」東京電機大学出版局を参照)

あさひ銀総合研究所が実施した中小企業に対するアンケート調査によると、コンピュータを導入している企業は83.7%に達しているが、その導入効果は期待されたほど実現されていない。その最大の原因が「人材不足」となっている。

(あさひ銀総研リサーチNO. 14)

中堅・中小企業の特徴は、人材不足と組織の脆弱性および管理体制の不十分性にある。特に大島氏が指摘しているように、(1)マニュアルがない、(2)業務分掌が明確でない、などがこれら企業の常態であり、通産省のシステム監査基準に則って監査すると、ほとんどが不合格となり、監査を実施する意味がないことになってしまう。他方、中堅・中小企業の経営者にとってみれば、自社の弱味を承知してコンピュータの利用をしているのであり、社内の体制の善し悪しよりはむしろ事業の業績の改善に関心があるといつてよい。従って経営者がシステム監査人に期待するのは、経営コンサルティングに近いものであると言えよう。大島氏がシステム監査とコンサルティングの関係について「システム監査の範囲を広く考えたい。」と述べているのは至極もっともなことだと考える。

システムの企画段階では「有効性監査」が重要である。システム監査基準は、システムの「安全性、信頼性、効率性」を高めることによって情報化社会の健全性に資することを目的とするとしているが、「効率性」についての基準が不十分であるばかりでなく、「有効性」については全く欠落している。「効率性」アプロー

事例研報告

チは「インプットとアウトプットとの技術的な内的均衡関係からシステム自体を立証する考え方」であり、「有効性」アプローチは「システムの目的とアウトプットとの対比からシステム自体の目的達成度を立証しようという考え方」である。（日本内部監査協会編「情報システム監査の実務」）また、有効性監査は中堅・中小企業のみならず大企業においても、「戦略情報システム」の監査に欠くことのできない要素である。

「システム監査基準」が、「効率性」特に「有効性」についての記述を欠く理由は、業種・業態・規模ごとに内容が異なり、かつ個々の企業の企業文化を配慮する必要がある、さらに情報の価値が利用する人に依存する性質を持つためであろう。しかし、現実の監査の実務において有効性監査が求められるとすれば、確立した基準や手続きがないではすまない。現状では、システム監査人が自ら企業の手続きを作成し、独自の監査基準を設定して、評価しなければならない。有効性監査の定式化が望まれている理由である。

大島氏は、企画段階の有効性監査のアプローチ方法として、企業の内面から機能的側面と投資効果的側面を監査することを推奨している。この考え方は、M. M. Parker および R. J. Bensor の「情報システムの経済学」（日経 B P 社）を参考にしている。M. M. Parker らは、情報システム構築の意思決定プロセスにおいて「投資案の技術面から見た実現可能性評価」と「情報技術の事業面から見た採算性評価」を区別し、それぞれ異なる評価尺度と検討内容によって別々に評価し、企業全体の観点で決定をすべきであるとする。また、投資効果評価法として、「投資回収期間法」、「投資利益率法」、「ウエイトポイント法」などがある。大島氏はベストな手法はないが、定性効果（省力化効果、価値再編成効果、価値連結効果、価値加速効果、イノベーション効果など）は網羅すべきであるとし、定量効果としては「納品リードタイムの短縮」、「出荷ミスの減少」などを挙げる。

有効性監査の課題としては、(1)手法と書式の定式化、(2)ドメイン毎のチェックリストの整備、(3)他企業との比較のためのデータベースの整備、(4)再利用可能ソフトの資産価値継続の評価、などがある。

大島氏の研究発表は、有償の実務のなかで実施された定式化手法として、示唆に富むものであった。
(NO. 308 野村 章)

事例研究会によるシステム監査に参加して

NO. 352 宮崎 一紀

システム監査の必要性が言われてから久しい。しかし現実には、(財)日本情報処理開発協会の調査にも現れているように、公共性の高いシステムや一部の企業で実施されているのみで、一般には普及しているとはいいがたい。コスト対効果の面でも、かなり疑問視されている。

しかしながら、従来の安全性、信頼性、効率性の面だけでなく、情報システムの投資対効果、特に次期システムの有効性、戦略性の確保をターゲットとしたシステム監査の要求はかなりあると考えられる。さらに、エンド・ユーザ・コンピューティングの時代における情報システム部門のあり方など、システム・コンサルティングの領域とオーバーラップする傾向にある。事例研究会で行ってきたシステム監査の中にも、システム監査の範囲として投資対効果やシステムの戦略性監査の要求が多くあった。今後のシステム監査の一つの方向と考えている。

事例研究会におけるシステム監査は、時間、方式においてかなり制限のある範囲での活動であり、全面的な監査とはいいがたい（ちなみにわれわれは模擬監査とよんでいる）。ユーザ部門、システム部門のヒアリング、ドキュメント調査が中心となっており、詳細な調査やツールを使用したプログラムの検証までは入れていない。しかし、システム監査が果たすべき本質をしっかり捉え、現在の企業が求める方向からアプローチしているつもりであり、その役割は十分果たしていると考えている。

今回参加したシステム監査は、販売管理システムが対象であった。3か月以上の長期にわたりかなりの時間をかけて実施し、時間、方式など制約条件下の活動としては、満足いく内容であった。特に、当該企業の監査部が今後のシステム監査の方向を探ろうという意向をもっており、われわれが主体で進めつつも、実際の事実認識や方向づけは監査部と討議して進め、適切な方向づけができた。戦略性監査の要求をふまえ、将来の戦略的情報システムへの的確なア

アプローチの検討も進めることができた。そういった意味では、監査を行ったわれわれも良い経験を得られたシステム監査であったろう。

システムの有効性、戦略性を考えたとき、事業戦略やそれに沿った企業活動を抜きにしては考えられない。一線の営業へのヒアリング、販売管理部門へのヒアリング、システム部門へのヒアリングを通して、事業戦略、マーケティング戦略に沿った販売活動・販売管理を実現するための情報システムの有るべき姿を明確に捉えようと試みた。さらにそのような情報システムを実現するための、情報システム部門のあり方、これからの情報技術の方向についての提言を行っていった。

今回のシステム監査では特筆すべきことがひとつある。われわれの提出したシステム監査報告書に対して、当該企業のシステム部門から、今後の改善への対応、将来へのアプローチに関してのコメントをいただいたことである。その中でも、有効性、戦略性に関するわれわれの提言に対して、全くの同意を示していただいた。今後の方向づけとして活用していただけるのではないかと考え、システム監査の意義を感じている。

システム監査を初めて実践して

－事例研究会入会のスズメー

NO.314 山口 貞敏

1. 事例研究会入会のきっかけ

平成2年1月に合格証書をもらい、広告で知った当協会に仲間に入れてもらうべく、早速申し込んだ。しかし、入会はしたものの月例研究会への参加程度で会員の顔も名前も分からない、会費のみに貢献する状態でした。会社では開発プロジェクトの責任者として、私の担当するプロジェクトにシステム監査の知識と理解を取入れ大いに成果を上げてはいましたが、いま一つ満足出来ない、もやもや気分でした。そんなある日、A理事との会話の中で「分科会活動はしてますか?」、「いいえ、月例研究会には参加していますが」、「分科会活動をしないと、なかなか自分のものになりませんよ」とズバッと言われ、その時ハッと「もやもや気分の元

はこれだ」と感じ、心機一転、実践を中心とする「事例研究会」に入会した。これが私の「きっかけ」である。私にとってこの上ないご指摘を頂いた訳である。平成5年5月のことである。

2. システム監査事例の紹介

入会した当時、監査対象として話題になっていた企業はL社（製造業）であった。監査をするにあたってまず行うことは、監査チームの編成（リーダー、主担当、サポーター 合計8名）である。早速、監査チームメンバーに加えてもらった。この段階では先輩諸氏の鮮やかな采配に感嘆するばかりであった。

これが終わると先方に出向き監査対象システム/目的/要望の聞き取りである。この時の監査対象システムは販売管理システムで、目的は(1)信頼性、(2)効率性、(3)有用性/戦略性であった。分担決めでは、私は効率性を担当することにした。これからシステム監査の成否を左右すると言われる「システム監査調書」の内容の検討に入るわけですが、それには監査対象部門と監査対象システムについての全般的知識と理解が不可欠です。そのため監査対象部門の責任者よりそれらについてのヒアリングを行いました。

監査対象部門の全般的知識と理解ができたところで、いよいよシステム監査調書の内容の作成である。目的別担当者別分野別に作成し、これを持ち寄り全メンバーで吟味・調整した。

これからヒアリングの実施である。ヒアリング対象利用部門は西は大阪、北は埼玉と遠隔地を含んでいたため、土曜日の休みを利用してのトンボ返りのヒアリングでした。

ヒアリング内容の整理ですが、全員集合しての作業はせいぜい週1回程度しかできないので、そこではヒアリング結果の正当性（事実誤認がないか）の確認がやっとである。よって、内容の整理までは各自で済ませておかななくてはならないため、見えないところでの時間を相当覚悟しなければならない。

ここまで来れば、あとは「システム監査報告書」にまとめる作業である。システム監査概要、システム監査改善指摘事項、システム監査詳細に分け、それを「章」とし、それぞれを「節/項」に細分化し「目次」を作った。改善指摘事項として何を取り上げるか十分検討すべきである。さらに、緊急改善と通常改善にわけて総花

的にならないように注意を払った。「節／項」の中身はテーマ主担当者が担当して作成した。「目次」を完成させてからの作業のはかどり度は予想外に速く、メンバーの呼吸がピッタリ合っていたことが裏付けられた。

このようにして、4ヶ月にわたる監査が終わり、私は初めてシステム監査の実践を体験することができました。中盤以降からは先輩のアドバイスをうけながらも主体的に参画することが出来、予期した以上に満足出来る体験となった。数カ月休憩の後、次のテーマに取り組んでみたいと思っています。

3. システム監査の成功要因

この実践を通じて分かったことは、以下の点
が成功のキーポイントであるということである。

- (1) 目的を見誤らないこと／絞ること（総花的にしない）
- (2) チームワーク
- (3) スケジュール
- (4) システム監査調書（ヒアリング事項）の準備の度合

4. 事例研究会入会のススメ

ここで、私は会員の皆様事例研究会への入会をお勧めしたい。メリットとしては、

- (1) 何よりも、システム監査を第三者の立場で真正面から体験できる
 - (2) メンバーと一歩踏み込んだ交流が図れる
 - (3) 協会の一歯車からエンジンになれる（積極的な関わりが生まれてくる）
 - (4) いろいろな企業を知るチャンスとなる
 - (5) いろいろな方との面識のチャンスとなる
 - (6) 「役に立った」と感謝されたときに満足感が得られる
- である。

ここで実力を養い、各自、社のシステム監査ビジネスの担い手として、またシステム監査の普及促進に貢献しましょう。一念発起して、私たちの仲間にはいませんか！ 毎月第二火曜日に集まっています。

事例研へのお礼状紹介

平成5年8月2日

日本システム監査人協会
システム監査事例研究会 御中
K株式会社
代表取締役社長

情報システム監査の御礼の件

御会におかれましては、ますますご発展のこと
とお慶び申し上げます。

さて、昨年よりお願いしておりました弊社の
情報システムの監査につきましては、さる7月
27日に報告会をもち、懇切なご説明とともに報
告書を頂戴し、まことに有難うございました。

システム監査につきましては、弊社も親会社
共々一部の者が研究していただけで、会社とし
て取り組むのは全く初めてのことで、若干のと
まどいがありましたものの御会の監査人の方々の
熱心なご指導のもと、無事完了できまして感
謝しております。

弊社といたしましては、ここ2～3年の間シ
ステムの信頼性の向上を主に体制の整備に努め
て参りましたが、その方向が誤りないこと及び
より有益な改善策を確認できたことを非常に喜
んでおります。今後は親会社もふくめて具体的
な対策を一つずつ確実に実施して、より有益な
システムを運営してゆく所存であります。

あらためて御礼申し上げますとともに、今後
ともなにかとご指導下さいますよう宜しくお願い
申し上げます。 敬具

システム監査人日誌

第6回

NO. 39 川野 佳範

平成4年1月29日水曜日

昨夜はSACレポートの翻訳を12時過ぎまで行い、ベッドに横たわった時はすでに午前1時に近かった。そのため、今朝の起床は午前6時15分と遅かったこと、また今日は、会計監査のEDPフェーズのサポートのため午前9時30分までに福岡県久留米市に本社のある筑後運送株式会社に行かなければならないことが重なり、朝のジョギングは大濠公園を一周するにとどめてホテルに戻ってきた。

午前7時15分に朝食のため日経新聞を片手に階上にあるレストランへ。幸い窓際の二人用の席が取れた。ボーイがメニューをもって近づいてきた。長身で細身のタイプ、いかにもウエイターといった出立ちできりっとした二十歳を少し過ぎたくらいの青年であった。メニューを受け取ると洋食の欄に目をやる。メニューには「A」と「B」があり、「A」は1800円、「B」は1200円、「A」にはオートミールかコンフレーク、そして果物がつく。自分のポケットマネーが傷むわけでもないし、またボーイに“懐具合や品位”など見すかされているような気がしたので見栄をはり、あわや「A」と口から出そうになったが、その瞬間それを抑えて黙って「B」の方に指を差し、おもむろに「グレープ・フルーツに……、えーオムレツに……、ハムに、そしてコーヒー」とぶっきらぼうに言って、メニューを閉じてウエイターに返した。

目を窓越しにやると福岡市内が眼下にあった。町並みの向こうに少し霧がかかっているためか、うっすらとした油山の低い姿が見えた。2年前であったか仕事の関係で出張が土曜、日曜と跨がったことがあった。その折り、日曜日に税理士で博多陸友会に所属しているマラソン仲間の林さんと大濠公園から油山観光道路を経由してあの油山の頂上までの往復をジョギングしたことがあった。その時のあの七曲がりの坂道のきつさが思い出される。

目を日経新聞に転ざると「サハリン沖石油開発、三井物産連合が落札」、「株式手数料大口

から自由化」、「景気回復への道」といった活字が目飛び込んできた。まず、いつも必読している「春秋」欄を読む。今年は、コロンブスがアメリカ大陸を発見してちょうど500年になるという、アメリカ原住民であるマヤ族の風習だった喫煙がコロンブスによってヨーロッパに伝えられ、以来全世界に広まるまで200年とかからなかったと記述され、そしてダンディな男の携帯品であったダンヒルやデュポンのライターに話題が展開し、更に、人からは「売れないから止めとけ」といわれた100円ライターが今や日本の隠れた重要な輸出産業になっており、メーカーの「東海」は全世界各地で20億個生産しているという。最後に世間の常識に反するアイデアで世界市場を制覇した日本人のすばらしさと強さを賛辞して結んでいる。つづけて2ページ以降順次見出しを読んでいく。今日は読みたいと気をそられる記事が比較的少ない。そのためか、見たくはないのに金相場に目がいく。金価格は、数年前「今が底だ」と確信して買った金価格を大幅に割り込み、今もなお、大きな含み損を抱えたまま低迷している。「定期預金にでもしておけばよかったな」とため息が漏れてくる。株式市況も良くない。社会面に移ると「不動産競売の持ち込み急増、昨年2.7倍」と黒地に白抜きで強調されていた。「ああ、バブルの崩壊か……」

朝食を終えて西鉄グランドホテルを後にし、すぐ横町の商店街の路地に入り雑踏の中を西鉄福岡駅へと足を急がせた。8時発の特急大牟田行に遅れてはと。ホームに上がると各ドア付近には長い列ができていた。前へ前へと進むにつれてホームは狭くなって行きおまけに階段があるため、なおさら狭くなっていた。そのためかえって電車を待つ人は少なく、何とか座席が確保できた。JALの景品で買った合成樹脂の安物の黒靴から読みかけの「新平家物語」を取り出し読み始める。吉川英治の作品が好きだけでなく、吉川英治の「吾以外、皆吾師」という言葉が好きで、最近吉川英治作品を読みあさっている。すぐに物語の世界に引き込まれ現世を忘れる。気がつくと二日市に電車は停車していた。かなりの人が下車したのか空席が一つ、二つと目につく。乗降客のざわざわした気配で現世に戻された。“二日市か～。太宰府天満宮の梅はもう咲いたかな？ 行ってみたいな～。

帰りにでも寄れないかな〜”といつもながらの願望が頭を擡げる。再び電車は動きだした。そして、また目は「新平家物語」へ。スマートな特急電車は広い田園の筑紫平野をばく進する。小郡、宮の陣を過ぎ川幅の広い筑後川の鉄橋を渡ると電車は減速し出した。まもなく西鉄久留米駅である。進行方向右側に今日監査に行く筑後運送株式会社の大きなトラック・ターミナルが見えてきた。電車を降り階段を下ってタクシー乗り場へ。

西鉄タクシーが、さも暇そうに十数台客を待っていた。足早に小型タクシーの後部座席に身を置く。「筑後運送へ……」。タクシーは「すばやい」と言うより「乱暴な」と言った方が適切な位の勢いで駅前広場を走り出す。何気なく車の前座席のこちら側に目をやると佐賀競馬の開催日程の広告があった。今開催は本日29日から5日間で、今開催のメインは2月2日日曜の筑紫野賞アラ系A級千八百メートルと書いてあった。“へえ……、まだアラブのレースがあるんだ!”。農林水産省の管轄である日本中央競馬会のレースはほとんどサラブレッドである。経済大国日本は、円高とその経済力を良いことにイギリス、フランス、アメリカなど競馬先進国から優秀なサラブレッドの種馬をゴッホやピカソの絵画と同様に買い漁っては輸入し、ついにアラブを駆逐して中央から追いやってしまったのだ。新平家物語の九郎判官源義経をこよなく愛す私は当然“判官最良”で、かつては劣性のアラブが良血のサラブレッドに勝つとなんとも言えない快感をおぼえたものであったが、今は夢。今はわずかに、かつてのハイセイコーやオグリキャップのように日の当たらない地方競馬の出身馬が中央に踊り出て中央の良血馬を蹴散らすことに人言えぬ喜びを感じるのみである。中央競馬と地方競馬の差は大きい。東京府中の競馬場は絨毯のような芝コースの一周2400メートル、ダービーともなれば十数万人の観客を動員するのみならず、全国各地の場外馬券売り場に多くのファンを集める。佐賀競馬場は、ダートコース、雨でも降ればどろんこの一周1100メートル、一日の平均入場者数はわずか5千人足らずである。

束の間そんな思いに耽っているうちタクシーは狭い街道を走り抜き、いつの間にか筑後運送株式会社の本社前に横付けされた。お金を払っ

て玄関を入ると近くにいた幾人かの社員が仕事の中にも関わらず立って「いらっしゃいませ」と声をだし軽く会釈をする。事務室全体にすがすがしさが漲っていた。筑後運送は昭和49年の商法改正で監査対象になった会社で運送会社としては全国でも大手に位する会社である。

「経理部の井上さんをお願いします。トーマツの川野です。」「こちらへどうぞ」と都会のOLとは違って口紅も控えめで素朴な感じのする女子事務員が簡素な間仕切の応接室に導いてくれた。まもなく全体に丸みがあり、目は小さく垂れていて口元も小さく優しいような経理部長の姿が現れた。「お待ちせしました。……どういたしましょうか? 上川先生も、木戸先生も、それから東京からの岩井先生も来ております。……監査の現場の方にご案内しましょうか。3階の会議室で監査をしています。岩井先生は、すでに筑後情報システム株式会社の方へ行って作業をしています。」階段を昇りながら言葉を交わす。階段は薄暗いがきれいに清掃されておりチリーつとない。建物そのものは築後30年以上も経過しているようで老朽化が始まっているが、大事に扱われているせいか会議室の壁の木目は艶があってそれなりの趣がある。その壁には、数々の感謝状や表彰状が掲げられていた。この会社が如何に地元経済界に貢献しているかがわかる。部屋の真ん中にいくつかのテーブルが寄せ集められ、そのテーブルの上には会計伝票や証憑書類が山積みされていた。

木戸さんは98ノートを前にしてしきりとキーを叩いていた。「ロータス123」を使って財務分析をやっていた。時系列比較、各種比率分析を行い、最終的にはSTAR(Statistical Techniques for Analytical Reviewのソフトウェア)を使用して回帰分析を行い監査の着眼点を絞り込む手続を行っている。木戸さんは幼い日に病氣して不幸にも重度の障害者となり、今は足が不自由である。しかし、いたって快活で常に前向きで仕事も良くできる。車の運転もうまい。足が使えないのでアクセル、ブレーキなどすべて手で操作する。五体満足であっても私は運転が出来ないので、ときどき木戸さんに乗せてもらっている。

川上さんは売上取引の検証を行っている。筑後運送は、久留米を拠点に南は鹿児島から北は栃木県の宇都宮まで主要な都市に営業拠点を持

っており、各営業拠点はネットワークで繋がれて配送業務はオンライン処理されている。委託された荷物が今どこにあるか直ちに検索でき、その代金が請求済みか、未請求かなど営業に必要な情報がリアルに把握できるシステムになっている。ただ、営業のデータがうまく会計情報システムに流れていないため、売上データの網羅性、正確性、整合性は監査人にとって重要な監査ポイントになっている。経理部長の井上氏も会計システムがパッケージソフトであるため経理処理に少なからぬ影響が出ていることを認識している。新経理システム開発の必要性に迫られている。しかし、ここにきての経済不況でご多分に漏れず会社の業績が芳しくない。したがって、井上氏は、常勤役員会へ新経理システムの開発に関する提案を躊躇している。「この件に関して先生から社長に言ってくれと助かるんですが……」と笑みを浮かべて私を見る。私も苦笑気味に笑い返す。(つづく)
(職業上の守秘義務を守るため人物、法人名、仕事上の内容についてはフィクションにしてあります。)

ホームパーティ紹介

パソコン通信で地方の方も 情報交換に参加しよう

NO.9 蓮見 節夫

監査人協会では、協会からのお知らせ、会員間の情報交換、論議の場として、パソコン通信のホームパーティを設けております。

会員なら、誰でも、いつでも情報交換や論議に参加できます。協会からのお知らせも、タイミングよく知ることができます。中央での分科会の様子も知ることができます。

パソコン通信を通じて、地方の方も情報発信ができます。

希望者は、以下に電子メールを入れて下さい。

Nifty Serve ID:NO:MHE02226 蓮見節夫

事務局からのお知らせ

<会費振込のお願い>

本年度(平成6年1月1日～平成6年12月31日)の会費(正会員10,000円、準会員8,000円)を、下記宛お振り込み下さい。

平成6年4月末日まで

郵便振替口座 東京1-352357

加入者名 日本システム監査人協会事務局

平成6年5月1日から

郵便振替口座 00110-5-352357

加入者名 日本システム監査人協会事務局

銀行振込口座 第一勧業銀行 北沢支店

普通 1053488

口座人名 日本システム監査人協会事務局

小宮山 登志雄

<住所変更について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせ下さい。

<合格者の連絡先調査のお願い>

1月末に、昨年10月に実施されたシステム監査技術者試験の合格者が発表になりました。ついては、会員の周辺で合格者を発見(?)した時は、事務局まで至急FAXでご連絡下さい。事務局より折り返し、入会申込み書を発送致します。

モ ニ タ 通 信

ー プリンストンだより ー

大寒波がやってきた

NO.356 横田 由美子

年明け早々、北米東海岸は今世紀最大ともいわれる大寒波に見舞われ、ここニュージャージー州も $-10^{\circ}\text{F}\sim 10^{\circ}\text{F}$ の日が1週間続きました。華氏から摂氏への換算式が $(^{\circ}\text{F}-32)\div 1.8=^{\circ}\text{C}$ ですから、 $-23^{\circ}\text{C}\sim -12^{\circ}\text{C}$ ということになります。寒波来襲と聞いて粉雪を連想し、家のそばでスキーができるかもしれないと内心ワクワクしていましたがとんでもない誤算でした。気紛れ天気は粉雪だけでなく雨やみぞれも降らせませす。カラオケソング「氷雨」を口ずさんではみましたが、あまりの寒さ冷たさに、この歌はアメリカに似合わないと感じました。外にたった10秒いるだけで耳がちぎれそうに痛くなり、半コートで歩こうものなら、突き刺すような冷気で足がジンジンしてくるのです。

更に、雨やみぞれが降った翌朝は、それらを浴びたありとあらゆる物が氷に完全に覆われて、まるでガラス細工のようになります。電柱電線、郵便ポスト、車、家、木の一枝一枝、草の一本一本、それに無情な飼主主に戸外に置き去りにされた犬（これ本当です）までも……一瞬、ガラスの国に紛れ込んだような錯覚に陥り感動しますが、空想にふけている訳にはいきません。外に停めておいた車には3センチもの氷が張り付いてしまい、その氷を剥がすのに熱湯をかけたりスクレーパーで削ってみたりと大仕事。熱湯をかけても「焼石に水」。いや「厚氷に湯」と言うべきか。結局、仕事に行くのを諦めた人が何人もいたようです。また、池や湖のみならず道路や芝生にいたるまできれいに氷に覆われて、あたり一面広大なスケートリンクです。しかし、誤って滑ってしまった人は見かけても、遊びで滑っている人はほとんど見かけませんでした。

100年来というだけあってニュージャージーっ子も勝手がわからずあちこちでトラブル続発。行きつけのリカーショップのおやじさんは、滑って転んで右腕骨折。息子のクラスメートの家では水道管破裂。キッチン、トイレが使えず、友人宅へ避難しようとしたけれど、ガレージの

ドアが凍って開かずに脱出不能。（わが家はいわゆる「タウンハウス」。肩寄せあった家の作りが幸いして特に被害はありませんでした。）私の友達は帰宅途中、路上で車が急に動かなくなりパトカーに保護されたとか。「きっとガソリンが凍ったんじゃない。」とは本当かしら？？ この辺いたるところにある坂道ではスリップして上れない車が続出。我が連れ合いも車押しを手伝って来たことやらで、ズボンを泥だらけにして帰宅。臨時休業の店やオフィスも多く、スーパーの魚売り場が閉鎖されたりもしました。また、暖房のための電力消費に供給が追いつかず、電力会社がテレビ・ラジオを使って非常事態宣言をする始末。節電のため極端に薄暗くなっているスーパーの店内が事の深刻さを感じさせてくれました。

しかし何といても一番困ったのは学校がまる一週間ぶっ続けて休みにになった事です。スクールバスの安全、教師や学校職員の足の便を考えてのことなのでしょうが。もし日本でこのような事態になったら、手回しよく先生から電話連絡網で休校中の宿題が回ってきそうですが、アメリカはおおらかそのもの何にも無し。さりとして外で遊ぶほうにも余りの寒さに子供達も完全にギブアップ。私も無用なトラブルを避けるために外出を極力避けていたので、ほとんど一週間、エネルギーを持て余した子供と家の中で缶詰状態。「亭主元気で留守がよい！」は子供にも当てはまる事を知った一週間でした。

近くの「プリンストン高等研究所」にて



新 刊 情 報

情報システムの内部統制質問書

- 中間報告 -

日本公認会計士協会
情報システム委員会

会計監査のみならずシステム監査の実施に際しても広く活用されていた日本公認会計士協会の『EDPシステムの内部統制質問書』が『情報システムの内部統制質問書』として生まれ変わった。

『EDPシステムの内部統制質問書』が公表された昭和55年当時と較べて、情報技術の飛躍的な進歩により、利用形態の高度化、広範囲化など情報システムをとりまく環境は大きく変化している。これらの変化に対応すべく今回の改訂が行われたわけである。今後も情報システムをめぐる環境は加速度的に変化していくものと思われる。そこでこれからも引き続き検討を加えていく必要があるという認識で『中間報告』というかたちをとっている。

この『中間報告』は、対象を大きく業務処理統制、運営管理、企画・開発業務、運用業務、安全統制、外部委託、システム監査、小規模システムの8つに分類し、そのなかをさらに中項目、小項目に分類して、箇々のチェック結果 [A (非常によい)、B (多少問題はあるが概ね信頼しうる水準にある)、X (信頼できない)、N/A (該当なし)] が要領よく項目の評価及び総合評価にまとめられるようになっている。

システム監査の項目をみると、統制目標として、「会計情報の正確性及び信頼性を確保するためには、内部監査の一環としてシステム監査を実施する必要がある。」と示されている。

参考までに、システム監査を対象としたチェック項目は以下の通りである。

- (1) システム監査体制
 - ・システム監査の担当部署が設けられているか。システム監査部署を設けていない場合、他の代替する機能があるか。
 - ・システム監査担当部署の独立性が確保されているか。
 - ・システム監査担当部署の人数及び構成がその役割からみて適切であるか検討されているか。
 - ・監査領域が明確に定められているか。
 - ・企画・開発・運用の各段階で、システム監査が行われているか。
- (2) システム監査担当者
 - ・システム監査担当者は情報システム、会計、監査及び業務等に関する専門知識及び実務経験を有しているか。
 - ・システム監査担当者に対する教育訓練が定期的に行われているか。
- (3) システム監査規程
 - ・システム監査規程が明確に定められているか。
 - ・システム監査規程は、会社の規模及び業態等の特質を考慮して作成されているか。
 - ・システム監査規程には、下記の事項が含まれているか。
 - a. システム監査担当者の権限と責任
 - b. 監査計画
 - c. 実施手続
 - d. 報告手続
 - e. 他の監査との調整

この『中間報告』は各項目をモジュール化することにより、必要項目を必要な数だけ利用できるように考慮されているので、部分的にそのままシステム監査にも活用でき、会員必携の書といえる。

A 4版96頁1部 1,000円。フロッピーディスク版1枚 2,000円で一般に頒布されている。送料各自負担。

申込先 日本公認会計士協会総務課
TEL. 03-3818-5551
(NO. 41 今井 純子)

新規入会個人会員

番号	氏名	勤務先・所属	
618	石坂康裕	日揮情報システム	システムマネジメントセンタ
619	村上均	元システムサービス	システム部
620	小山正弘	京都電子計算(株)	京滋事業本部
621	藤田一光		
622	田頭稔造	(株)NTTテレコムエンジニアリング中国	システム開発部
623	澤田辰也	日本電気(株)	官庁システム開発本部
624	棚橋泰文	棚橋泰文法律事務所	
625	小野友一	(株)シーイーシー	情報エントリー事業部
626	宮川弘	監査法人 八重洲事務所	
627	笹津武司	(株)富山富士通	OA開発統括部第1開発部第3開発課
628	中村敬	安田火災海上保険(株)	システム開発部第2プロジェクト室
629	内原繁	日本ケミファ(株)	管理部システム課
630	高梨直子	監査法人 トーマツ	東京事務所 マネジメント・コンサルティング
631	松澤潤	日動火災海上保険(株)	システム第一部第五課
632	尾島純子	(株)ガウディ	
633	石田正幸	日本チバガイギー(株)	医薬(事)経営企画情報部 情報システムG
634	安藤文博	アグランドフューチャービジネスコンサルティング(株)	
635	永徳昭人	(株)南日本情報処理センター	システム営業部

事務局移転のお知らせ(予告)

株式会社 産能コンサルティングの本社移転に伴い、来る4月から協会事務局の住所、電話、FAXが変更になります。

住所：〒150 東京都渋谷区笹塚1-64-8 笹塚ハウスビル7F
 (株)産能コンサルティング内
 TEL：03-5350-9268
 FAX：03-5350-9269

3/25の移設工事までは、従来通りです。

発行所 日本システム監査人協会
 発行人 川野 佳範
 事務局 〒160 東京都新宿区西新宿3-2-11
 新宿三井ビル2号館
 (株)産能コンサルティング内
 TEL. 03(3343)5820 FAX. 03(3343)5573

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)
 波田 直登 NTTデータ通信(株)
 TEL. 03(3804)8267 FAX. 03(3804)8290
 徳武 康雄 富士通(株)
 TEL. 03(3778)8271 FAX. 03(3778)8106

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします